

その いずみの園だより vol. 64

2015.8.27

夏季号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信徒への手紙113:13

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
中津総合ケアセンターいずみの園

基本理念

神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp



(玄関入口横のスタンドグラス)



(上、下写真：天井に設置された明かり窓)

「事業所内保育施設マリアガーデン」のスタンドグラス

「備えあれば 憂いなし」

「福祉の里センターサマリア館」が今春開所され、この書を横額にして寄贈させていただいた。書の意味は「平生からいざという場合に準備ができれば心配はいらない」と。この書が好きで何度も書いたが、私の想いは、聖書創生記22章に記される「主の山に備えあり」という意なのである。人の力では防ぎようがないとき「神は、信じる人を救われる」と聖書は示されている。

「心を尽して主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない」
箴言3・5

吉富町出身の横川知親師は40年程前にフィリピンに宣教師として幸子夫人と共に遣わされ、マニラで宣教を始められた。当時、マニラは治安が非常に悪く、日本からの送金は、途中で全て盗難されていた。何か月間住む家も食物も無く、貯えも果て餓死寸前の日々が続いた。何度も何度も神に祈った。

近くに住んでいるフィリピンの人たちが、不思議な日本人がいる。可愛そうだと食物を与えてくれた。やっと商社の人の手で届けられるようになった。助けてくださった方々に喜び与えられることができた。その助けてくださった方々が教会員となり役員となった。

10年目に立派な三階建の教会が建ち、2000人を超す人々で明るく、にぎやかな教会生活が始まった。でも40年間は平穏な日々はなく困難と恐れは毎日続き、会堂が焼けたり、横川師も倒れることが多く、過労と気候、風土に慣れない体質に悩まされた。膠原病を患い幸子師もガンの手術で10年程前沖繩で手術された。今年になって再発と診断され前の沖繩で手術となった。本人は明るく食欲も旺盛でこれがガン患者かと思った。ガンではなく、別の病気に判別されて元気に帰られた。移住して10年目にやっと生れた娘、息子も今は教会の良き働き人として、現地人として伝道に励んでいる。希望をもって喜び、苦難を耐え忍んだ彼等に祝福があるように。



社会福祉法人
九州キリスト教社会福祉事業団

理事

木村武夫